**聖霊降臨節第16主日　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2023年9月10日**

**「天使の顔」**

**詩編1編6節**

**1:6 神に従う人の道を主は知っていてくださる。神に逆らう者の道は滅びに至る。**

**使徒言行録6章8～15節**

**6:8 さて、ステファノは恵みと力に満ち、すばらしい不思議な業としるしを民衆の間で行っていた。**

**6:9 ところが、キレネとアレクサンドリアの出身者で、いわゆる「解放された奴隷の会堂」に属する人々、またキリキア州とアジア州出身の人々などのある者たちが立ち上がり、ステファノと議論した。**

**6:10 しかし、彼が知恵と“霊”とによって語るので、歯が立たなかった。**

**6:11 そこで、彼らは人々を唆して、「わたしたちは、あの男がモーセと神を冒涜する言葉を吐くのを聞いた」と言わせた。**

**6:12 また、民衆、長老たち、律法学者たちを扇動して、ステファノを襲って捕らえ、最高法院に引いて行った。**

**6:13 そして、偽証人を立てて、次のように訴えさせた。「この男は、この聖なる場所と律法をけなして、一向にやめようとしません。**

**6:14 わたしたちは、彼がこう言っているのを聞いています。『あのナザレの人イエスは、この場所を破壊し、モーセが我々に伝えた慣習を変えるだろう。』」**

**6:15 最高法院の席に着いていた者は皆、ステファノに注目したが、その顔はさながら天使の顔のように見えた。**

**「天使の顔」これが今日の説教題です。私たちの教会は国道沿いに掲示板があります。多くの車が教会の前というか横を通り過ぎます。歩いて教会の横を通り過ぎる人もたくさんいます。教会の掲示板の「天使の顔」という説教題を見た人はどんな顔を思い浮かべるのかなと思いながら説教の準備をしていました。「教会だから天使は当たり前だよね」と思う人もあるかもしれません。もしかしたら立ち止まって説教題をじっと見て、その人なりの天使の顔を思い浮かべる人もいたかもしれません。**

**「天使の顔」美しい響きです。インターネットで調べたらどんなものが出てくるかなと思って調べました。そうしたら1952年にアメリカで公開された映画のタイトルが一番上に出てきました。映画通の方ならご存じかなと思います。私はこの映画は知りませんでした。「天使の顔」ってどんなに美しい映画かなと思って内容を調べたら、天使の顔のような美貌の女性がその美しさで、ある男性を虜にしてというサスペンス映画でした。天使の顔のようでいて悪魔のような心を持つ女性といったところです。他にも色々調べると「天使の顔」イコール純真無垢な赤ちゃんのような顔というよりは、天使のような美しい顔をしているのだけれどもその心は・・・。というようなものが多かったです。そういうのが世間一般に考えられている「天使の顔」のイメージのようです。**

**今日の聖書箇所の使徒言行録6：15に「最高法院の席に着いていた者は皆、ステファノに注目したが、その顔はさながら天使の顔のように見えた」とあります。このステファノが「天使の顔」であるというのです。**

**最初の教会がヘブライ語を話すユダヤ人とギリシャ語を話すユダヤ人とで分裂をしかねない危機にありました。その原因はギリシャ語を話すユダヤ人のやもめの女性が食事の配分のことで軽んじられたからです。使徒たちは食事の世話などをさせるために霊と知恵とに満ちた評判の良い人を7人教会の人たちに選ばせました。その一人がステファノです。**

**この、ステファノはただ単に食事や身の回りのお世話をする給仕係ではなくて、イエス様の福音を宣べ伝え、病の癒しなどの奇跡を行う伝道者の働きをしていました。その働きが評判になり、イエス・キリストを信じる教会の群れに多くの人が加えられていきました。**

**ただ、その状況が面白くないと感じる人たちは必ずいるものです。それがキレネ、アレクサンドリア、キリキア州、アジア州出身のユダヤ人で「解放された奴隷の会堂」に属する人々です。彼らはかつて奴隷としてローマに連れていかれ、後に解放された人々の子孫と考えられています。彼らはユダヤ教への改宗者で、ギリシャ語を話すユダヤ人でありました。その「解放された奴隷の会堂」で熱心にユダヤ教を礼拝していました。そんな彼らでしたが、彼らの仲間がどんどんとキリスト教会に改宗して加わっていくのです。彼らからすると大切な仲間が怪しい宗教のキリスト教に取られたという理解ですから当然面白くありません。それがどうもステファノが表立って行っている。ギリシャ語を話すユダヤ人のステファノが自分たちの仲間をキリスト教会に引き抜いている、そのように考える「解放された奴隷の会堂」に属する人たちはなんとかしてステファノを打ち負かそうと考えて論争を仕掛けます。しかし、ステファノは知恵と霊とで語るので全く歯が立たないのです。**

**ステファノとまともに議論をしても勝ち目がないので、彼らは人々を唆して「わたしたちは、あの男がモーセと神を冒涜する言葉を吐くのを聞いた」と言わせ、さらに民衆、長老たち、律法学者たちを扇動してステファノを捕らえ、最高法院にひいていきます。さらに偽りの証言をする偽証人にステファノが言ってもないのにさも言ったかのように勝手に解釈して訴えさせたというのです。**

**どこかイエス様の裁判を思わせるのが今日の場面です。唆し、扇動して、偽証人を立ててでもステファノを窮地に追い込みたい、何とかしてステファノを消し去りたいそのような人の醜い心が渦巻いている場面だと思います。**

**「唆す」とはその気になるように仕向けることです。「扇動する」とは気持ちをあおり、ある行動を起こすように仕向けることです。「教唆扇動(きょうさせんどう)」という四字熟語がありますが、その意味は「人を教えそそのかして、気持ちを煽り立て、実際にある行動を起こすように仕向けること」です。要するに、唆す（そそのかす）も扇動するも同じような意味で、ステファノを消し去りたい、しかも自分たちの手を汚さずに追い詰めたいという自分たちの思いを実現するために、人々の気持ちをさもステファノが神様や律法を軽んじて欺いている罪にまみれた人間だと思い込ませるように仕向けている卑怯なやり方です。解放された奴隷の会堂の人々、さらには唆された人々、扇動された民衆・長老たち・律法学者たち、偽証人、さらには最高法院の人たちも、このステファノの逮捕から裁判に関わった人たちの誰もがステファノの顔とは反対の悪魔のような顔をしていたでしょう。人の思いに支配されたギラギラしたニヤニヤしたような顔、悪魔のような顔でステファノを追い詰めたと思うのです。**

**そのような悪魔のような顔をしていたであろう人々が見たのが、さらながら天使の顔に見えたステファノの顔です。15節の最後のところをもとの文章を直訳すると「彼の顔は天使の顔のように見えた」です。新共同訳聖書でも同じですが天使の顔のように見えたなのです。実際にステファノが天使の顔をしていたのではなくて、殺意に満ち人の思いに支配された彼らが見るとステファノの顔が「天使の顔のように見えた」のです。私はこの「見えた」ということが大事な事なのかなと思います。なぜ彼らにはステファノの顔が天使の顔のように見えたのでしょうか。もしかしたら実際には見たこともない天使の顔のように見えたのでしょうか。**

**最初に「天使の顔」の映画の話や世間一般のイメージの話をしました。天使の顔のように美しい顔をして一見すると純真無垢だけれども、その心の奥底では悪魔的なものがある、そういったものが多いということでした。そこと何か関係しているのではないかなと思いました。天使の顔のように見えるけれども実は・・・。それってもしかしたら私たちの願望なのかなと思うのです。そうあって欲しいという私たちの願望。天使の顔のようでいて心も天使で何の汚れもない純粋なピュアな存在というのがどこか近寄りがたい神聖なものがあるので、実は悪魔的なものがあるということを描くことで、私たちの姿に近づけようとしているのではないかと思います。それは言い換えると神聖なものを前にすると私たちの醜さとか罪とか汚れとかが浮き彫りにされるのです。その自らの姿を見せつけられるのが怖くて、天使の顔のように見える人でも、実は悪魔的に罪もあるし汚れもあると身近な存在に近づけることによって安心感を得ようとするのです。**

**人間の赤ちゃんでもそうですし犬とか猫とかの赤ちゃんとかでもそうなのですが、私は天使のように清らかな笑顔の瞬間を見たり触れたりすると、ほっこりすると同時に何か自分の中の醜さ汚さを感じてしまいます。「この子の清さに比べて自分は汚れたものだなあ」と思わせられることがあります。自分の中の罪の姿を見せつけられるような気がするのです。だからこそ天使の顔のような存在ってとても尊く思えます。**

**この時にステファノの顔が天使の顔のように見えた人々は、自らの醜さ汚れそして罪の姿に気づかされたのではないかと思うのです。唆し、扇動し、偽り、何とかしてステファノを消してしまいたい、自分たちの手を汚さずにステファノを亡き者にしたい、その人の思いに満ちた姿が本当は神の前に間違ったことをしているということに薄々気づかされた、だからこそステファノが天使の顔のように神聖な清いものに見えたのではないかと思います。自らの罪の姿に気づかされたからこそ、まるでイエス・キリストのように何も言わず抵抗もせず不利な立場に追い詰められてもなすがままの存在のステファノが何か近づきがたい神聖なもののように見えたのではないかと思います。**

**彼らにとってはステファノの顔が天使の顔のように見えたその時が悔い改めるチャンスだったのです。自らの汚れ醜さそして罪の姿を認めることがまずなによりも大切だったのです。彼らはそれをしなかったのです。それをしないでこの後語るステファノの壮大な説教を聞いて、そこで語られる自分たちの罪の姿を指摘されて逆上してステファノを殺害してしまうのです。罪に罪を重ねてしまうのです。**

**この彼らの姿って他人ごとではないと思います。私たちの姿です。自らの罪の姿を気づかされても悔い改めようとしない強情な私たちの姿です。ですから私たちに大切なことは、その私たちの罪のためにイエス様が十字架に掛かってくださり私たちに愛を示して下さった、その愛に立ち帰ることです。こんな私のために十字架にかかって苦しんで死んでくださったイエス様に「ありがとうございます」と感謝をすることです。日々イエス様の十字架と復活の愛に立ち帰り感謝して歩む中で、私たちはイエス様の顔に見えるようになっていくのです。それが私たちにとって自然にできる伝道であり、また愛の証しになっていくのです。**